

日本応用地質学会東北支部「第4回講習会」開催報告

成 田 賢

日本応用地質学会東北支部による第4回講習会が、東北地質調査業協会の協賛をいただき下記の内容で盛会の内に開催することができました。

協 賛：東北地質調査業協会

日 時：平成6年9月2日

1：00～4：30

会 場：仙台市青年文化センター 2階
研修室

参加者：73名

講 演：「山地斜面の地形発達史的見
方とその応用の可能性」

東北大学理学部教授 田村俊和氏
「微地形分類による地すべり
運動特性の把握」

東北学院大学教授 宮城豊彦氏

今年度の講習会は、「地形に関する基礎知識」を主要なテーマとし、北村支部長の挨拶で定刻に開始され、中里俊行氏の司会で進められました。

田村氏は、斜面の地形解析について、最近の考え方とその解析手法、並びにその着眼点の重要性について講演されました。

この中で、斜面地形の形成が、単に不安定物質の稼働に起因するだけでなく、斜面

がかつて置かれた環境に代表される空間的位置に大きく起因していることを述べられました。この状況を解析するためには、遷急線の分布に着目することが重要で、これにより斜面形成の過程とその斜面の堆積物から形成時期を決めることができるとのことでした。

斜面の遷急線の分布・配置に着目し斜面形成史を解析することは、斜面の風化程度を予測する上で役立ち、斜面防災計画の立案、植生・土壌・水門環境等の環境保全、これらと関連する土地利用の基礎資料となる可能性があり、応用地質の分野でも活用が可能であるとのことでした。



田村氏の講演状況

宮城氏の講演は、地すべり微地形に関するもので、微地形を慎重に解析することに

よる地すべり形成史の解明が、地すべり調査において重要であることを強調されていました。

講演では、仙台市茂庭地区の開析された大規模な地すべりの地形上の特徴と地すべりにより乱された地質構造を題材に、地すべり地形内の岩盤が大きく攪乱されていることから、土木地質上このような地形の存在を把握する微地形解析の重要性をまず指摘されました。

また、地すべり地に認められる滑落崖やクラック等の微地形解析により地すべりの形成史を見いだすことは、地すべり調査から対策立案の一連の過程の中で大変有意義な情報となることを指摘されていました。

このような解析では、地形図を用いるのではなく、空中写真判読を主体とすることを強調されていました。



宮城氏の講演状況

講演をしていただいた2名の方ともに地形を単にその構成要素や地形構成としてみるのではなく、地形発達史的に読み取るこ

とが、土木地質上の検討事項の見落としを防ぐ点で大変重要であることを強調されていました。

地質調査で地形を見る場合、単に地質と関連させて検討することが一般的ですが、この講習会を機会に地形発達史的な観点で解析することの重要性を認識させられました。

最後に復建技術コンサルタントの太田保氏の閉会の挨拶で講習会は締めくくられました。

今回は、会場が狭く参加された各位には大変窮屈な思いをさせていただきました。今後は、このようなことが無いよう配慮しつつ、日本応用地質学会東北支部の講習会を継続していきたいと考えています。

今後とも地質調査業協会の皆様方のご指導ご鞭撻の程を宜しくお願い申し上げます。

なお、講習会の内容は、第4回講習会テキストとして製本されています。

希望者には実費にて配布できますので希望者は東北支部事務局に連絡いただければと思います。

(応用地質係)